

恵みと真理のニュース



2013 年 9 月の五次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

主が私の家庭の主人になり 御計画に従って召された者たちには、
万事が益となるように共に働く恵みで見守ってくださったこと感謝を捧げます。

私は 1992 年に結婚をして先にイエスキリストを信じた小姑に伝道され恵みと真理の教会に行つてイエス様を受け入れました。

2 年後には執事の職分を受けました。しかし、3 人の子供を育つので職分を疎かにしながらどんどん礼拝を休みました。そうするうちに住んでいた家を空かないといけな状況になりました。しかし、経済的にあまり余裕がなかったので貸しきり家を探せなくて目前が暗くなりました。その時から切に神様を捜し助けを求めながら祈りました。祈っている時にアンサンに住んでいた知り合いから他の事で電話がかかって来て私の事情を話しをしたらアンサンに来ると貸切の家のお金で家を買えると言われました。今住んでいる家を見て私達の経済状況で合つて今の家を買って引越しをしました。引越しをしてから整理を全部終えた後、外を見るとおかしく他の建物は目に入らなくて遠いところで上にそびえている大きい十字架だけが目に入りました。私も知らずに引かれてその十字架を見ながら何も考えなく行つたら私達の教会アンサン聖殿でした。その時“あ！神様が本当に私を愛してくださるんだ。頑張つて神様を仕えるように教会の近くのところ私を導いてくださったんだ。と思いました。神様の愛と摂理を感じてその時から熱心に礼拝を捧げ御言葉の恵みを受け信仰が成長し始めました。

一番上の小姑が体が痛くて私の家に来ているようになりました。肉体の病気ではなく精神的な痛みを持っている小姑の面倒みるのは大変で疲れました。しかし、痛い小姑によって私の家には祈りと賛美の声が絶えなかったです。

神様に祈りながら心から介護しながら区役所で助けを求めた結果小姑が生活保護対象者で選定され病院で入院して治療を受けるようになりました。元々小姑はその対象者になれない条件でしたが神様の助けと摂理で誰よりも早く対象者に選定され病院で安定的に治療を

受けるようになりました。今小姑は健康になって熱心に神様を捧げながら生活しています。

2010 年 12 月に青天の霹靂な話を聞きました。普通に健康でした母が急に脳卒中で倒れ意識不明の状態になったのです。

その話を聞いて病院に走って行ったら酸素呼吸器に頼って横になっている母の姿を見ると前が見えなくて祈りも出来ませんでした。

手術が終わるまで主の祈りを繰返しながら覚えてまた覚えました。医師から母はたとい命は得ましたが体の半分は麻痺され言葉も出来ないし精神も以上があると言われました。母は重病患者室に入りました。その日夜通し教会と家で主を仰ぎながら母のため祈りました。どころが次の日に病院から連絡が来て行ったら医師が言う“奇跡が起きました。様相意外に結果が良くてすぐ一般病室に移しても良いです”と言いました。神様の限りない権能と哀れみで私の母を助けてくださいました。とても嬉しくて感謝だったが私は重病患者室の他の患者と保護者を意識しなくて続けてハレルヤ！天の父、感謝します。！を叫びながら神様に栄光を捧げました。

その後、夜昼で母の麻痺された手と足をもみながら心をこめて介護しながら時と場所を関係なく切に神様に祈り賛美しました。母は驚くほど早く回復してすぐリハビリ病院でリハビリ治療に入りました。私は病院と家を行き来しながら母のリハビリ治療のため運動を助け教会の全ての礼拝に休まずに参加してもっと熱心に祈りました。当会長牧師が神癒と祝福の祈りをする時に治療に対する希望と確信を持つようになりました。区域長祈り会と区域礼拝でも区域長と聖徒達が母と私のために同じ心で祈ってくれました。母は五ヶ月ぶりに退院して私の家に来ました。母がまだ不自然な言い方で神様に感謝する言葉をする時には私の胸にじんとききました。リハビリのため運動を休まずにして今は杖を持って一人でよく歩けるように健康が回復されまし

た。そして今は田舎で帰って自分で畑を耕しながら平安に生活しています。ハレルヤ！

神様は私の旦那にも大きい恵みと愛を与えてくださいました。仕事をしながら指を切断される大きい事故が 2 回もありました。しかし、そのたびに応急処置と指の接合手術が良くなり神様が助けてくださり神経が損傷されなく手を使う時にどんな以上がないように完全に治療してくださいました。旦那は神様の恵みを体験して神様を深く信頼して畏敬され教会で熱心に奉仕しながら男性区域長の職分も受けました。去年あんしゅ執事の職分を受けてもっと信仰と従順で信仰生活をしています。

私の娘にも神様が時によって助ける恵みを与えてくださいます。長女が大学に進学して入学登録金を難しくなく集めて払うようにしてくださいました。祈りながら頑張つて勉強もして全額奨学金を受け親の負担もなくすように一つ一つ自分の夢を育つように見守ってくださいます。

息子達も教会学校で信仰教育を受け正しく誠実な子供で育ちながら学校生活でも大変な事もなく神様が見守ってくださいました。私は甲状腺機能低下症という病気にかかていましたが区域長と美花部員として聖徒と教会のため、教会学校で人形劇チームでも子供ため愛し使えるように神様の限りない力を与えてくださいます。また、祝福も溢れるように与えてくださいます。礼拝と奉仕を通して毎日神様の恵みを体験しながら生きています。

私がイエス様を受け入れた後一時期疎かにした信仰生活を悔い改め真心で主を仕え始めた後からいただいた神様の恵みと愛は表現できないほどです。主が私の家庭の主人になり大きい恵みと愛で見守ってくださったこと感謝を捧げます。日々主だけを愛し表しながら誇る私の家庭になり、すべての家族が礼拝し祈り賛美し伝道する模範的になる人生を生きることを祈りながら全ての栄光を捧げます。



【信仰コラム】

苦難と有益

“苦しみにあったことが私に良いことですこれによって私は主の律例を学ぶようになりました”(詩 119:71)

旧約の聖書ヨブ記 5 章 7 節に記録されるのを“人生は苦難のために出たのだ火片が上で飛ぶにひとしいだ”と言いました。火片が上で飛びあがるのが自然的な現象のように苦難が人生に近付くことやっぱり当たり前の事だという話です。どうせ苦難を免れることができない人生なら苦難をよって嘆いて悲しむのではなく苦難が有益されるようにする方法を学ばなければならいでしょう。聖書には苦難の問題を広くて深く扱いながら私たちに苦難が有益になるようにする賢明な方法を教えてくれています。

第一、苦難によってイエス様を迎接するようになれば苦難が有益になります。経済的な困難、肉身の疾苦、家庭の危機、人間関係（ヒューマンリレーションズ）での苦痛などによってイエス様に降伏して出る人々がいます。これは苦難が返って有益になってイエスキリストを信じる最大の福を受けたのです。

第二、苦難によって神様のみ旨に付くようになれば苦難が有益になります。ヨナは神様のみ旨に従って行くのを拒否してから魚の腹の中ですべて形言することができない苦難にあいました。その中でヨナは悔改の祈

禱をしたし、神様の恵みで死を免れた後神様のみ旨に従って行いました。それ程苦難によって神様のみ旨に付くようになったら苦難されたことが有益になります。

第三、苦難によって鍛錬を受けるようになれば苦難が有益になります。聖徒として完全な姿を取り揃えるためには鍛錬の過程として苦難が必要です。苦難は私たちの信仰と性品を貴重にさせてくれます。苦難は聖徒たちにあつてあこやがい中に入った異物のようでダイヤモンドが形成されるために受ける高熱と高圧のようなのです。

第四、神様の試験による苦難は有益です。アブラハムが彼の愛する独り子エサクを番祭で差し上げなさいという神様の指示に順従して行つた事は彼の一生で神様を向けた彼の信仰と従順の絶頂を見せてくれる事件でした。神様の試験を通過したアブラハムにエホバ神様がおっしゃるのを“私があなたに大きい福を与えてあなたの子孫に大きくなるように盛んで空の星のようで海辺の砂のようにするだからあなたの対敵の門を得ようまたあなたによって天下万民が福を得るである、これはあなたが私の言葉に従ったからであると”(創 22:16~18) しました。

第五、原因をわからない苦難にあつても 主の中で忍耐すれば苦難が有益になります。旧約の聖書ヨブ記の

主人公であるヨブは到底に理解することができない苦難の中身悶えしている途中神様に対する無条件的な信頼に対して悟るようになりました。理解することができない苦難に処しても私たちが神様の能力と知恵と善良さを固く信じる時神様とのもっと深い交通の席で進むことができます。

第六、イエスキリストによる苦難は何でも有益です。イエスキリストを信じるから苦難されるようになることは栄え栄えしい恵みで特権です。福音を伝えるからあう苦難、神様の仕事に力をつくすからあう苦難、キリスト中で敬虔に暮すとするからあうこのような苦難にはキリストと共に光栄が約束されています。苦難の中に恨んで不平を言いながら気落ちすれば苦難が残すことは苦痛と損失だけです。しかし苦難を聖書的に理解して信仰の発展と進歩のための道具と機会にすれば苦痛と損失を相殺してからも多くの有益を得るようにしてくれるでしょう。皆さんはどんな苦難でもキリストにもっと身近に進んでクリスチャンらしい姿を現わすようにすることになるようにして“苦難されたことが私に有益だから。”と言えるように願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

聖書には貴重な真理を説明するためにさまざまな比喻と象徴を使っています。その中に人を土焼きで比喻した言葉が多く、の所に記録されています。今日は土焼き比喻を詳考して恵みを分けます。先に、土焼き製造に現われた“神様の攝理”に関してその次には、土焼きに臨む“神様の恩寵”に関して終りに、土焼きに対する“神様の主権”に関してよく見ます。

第一に、土焼きを作る過程を通じて人間を選んで救援しながら変化させる神様の攝理に関してよく見ます。

本文に “主よ、あなたはわれわれの父です。われわれは粘土であって、あなたは陶器師です。われわれはみな、み手のわざです。” 言いました。ここで神様を陶器師で、人を粘土で比喻しています。だから陶器師が粘土を持って土焼きを作り出すまでの過程をよく見れば神様が私たちをどんな過程を通じるように攝理なさるかを分かります。陶器師は土焼きを作るために山と野で通いながら粘土を捜します。そうするうちに見つければその粘土を持て工場に運びます。これが土焼きを作るための第一過程です。このように神様が私たちを神様国の土焼きで作るためには粘土のような私たちを尋ねてくれて選ばなければなりません。そして粘土を工場に移しておいたが粘土の中には不純物がそのまま残っています。神様に天から与えられて初めて教会に出た人はまるで不純物が一杯な粘土固まりみたいです。罪ありのまま、不義したそのままです。粘土は自らきれいになる能力がないです。聖書はあきらかにおっしゃいました。“すべての人が罪を犯したので神様の光栄に至ることができない”と言ったし “義人はいない一りもない”と言いました。だから罪ありのまま、まずいそのまま、不義したそのまま神様が私たちを選んで教会で導きます。

陶器師はこのような粘土の中で不純物を取り除く作業をします。粘土を洗うはずみに入れて粘土を洗います。一方で水が出て他の方で流れながら粘土の中すべての不純物を取り除きます。このようにイエスキリスト位に出れば罪を貞潔にさせる恵みの体験をするようになります。聖霊と言葉で私たちの醜い罪を悟るようになさって悔い改めるようになさってイエス様の寶血で貞潔にさせます。そして生まれかわるようになります。神様の子になって義人になるようにします。その次に陶器師はきれいに洗った粘土を平たい上たちが置かれている所に移しておきます。粘土がきれいになることはしたがまだ固まりが多いからこれからはこれを破る作業をします。この生まれかわった聖徒が聖徒らしく暮すように変化を受ける過程です。聖書に “昔の人とその行為を脱いでしまいなさい”と言いました。イエス様を信じれば新しい人になります。新しい生命を受けます。私の内の人新しい人だがまだ肉身を着て暮す間には昔の人に属した性分が残って作用をします。

土焼き比喻に啓示された神様の攝理と恩寵と主権

だから内の人に適当な生活をしなければなりません。そうするから神様が昔の人の性分を破ります。高慢な性分を破って否定的な性分を破って偽りされた性分を破って世俗を従う性分を破ります。このようにして柔らかになった粘土をろくろの上において回しながらさまざまな模様の器を作ります。土で作る土焼きとは違い神様は彼の選んだ子を破りながらますます大きい器で作って使います。土で作った土焼きは一度作ればそのままあるが人はそうではなくて神様がずっと破って神様が使うのに適当なもっと大きい器で、もっと有用な器で作ります。

二番目は、土焼きに臨む神様の恩寵に関してよく見ます。

コリント人への第二の手紙で 4 章 7 節～9 節に “しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。” しました。人間は皆土焼きです。人間は不完全で懦弱な存在です。かえて人々が成しておいた事が偉いと言っても土焼きみたいな人間存在が変わらないです。人間は相変わらず罪の下あり死の支配の下あります。いくらなんでも学識と名声と知識と物質と美しい肉身を持った者でも結局死を避けることができない弱い土焼きであるだけです。ここに恵まれた消息があります。それはイエス様が土焼きの中の財宝になってくださると言いました。“見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。” (ヨハネの黙示録 3:20) しました。私たちは外部的に見るには土焼きみたいな人生だがイエスキリストを神様で仕えたわけに私たちの中には財宝が入っているのです。それではもう土焼きの中に財宝を持った人はどんな生を暮さなければならぬしまだどんな生を暮すことができるかをよく見ます。

この財宝を土焼きに持った私たちはいつも勝利の生を暮すことができます。私たちは四方で囲まれても包まれません。イスラエル民がモセの引導にしたがってエジプトを出発しました。神様が送った雲の柱、火の柱に沿って進んだら紅海の前に到着しました。渡る橋もなく船もなかったです。ところでエジプトの屏居と馬兵がイスラエル民を捕らえるために駆けて来ていました。これを見たイスラエル民たちが泣き叫んでどうすることができなかつたです。あの時モセは神様を向けて祈ったし神様の命令どおり手を突き出しました。すると強い東風が吹いて来たら海に道が生じました。イスラエル民はその道に走って渡りました。エジプト軍隊も海に入って行ったがイスラエル民たちは海をもうすべて渡りました。エジプト軍隊が海の中に来た時モセが神様の命令どおり手をあげて突き出すと水がもとの通りに合されました。エジプト軍隊が皆沈んでしまいました。イスラエル民たちが四方で囲むことをあつたが包まれないのです。彼の心霊に財宝である主イエス様を仕えた人は息苦しい事に適っても気落ちしません。イエスキリストが聖霊の能力で驚くべき慰勞と所望をくださるからです。

その心霊の中に財宝である主イエス様を仕えた人は逼迫を受けても捨てたところなりません。イエス様を仕えて暮す人が世の中で逼迫を全然受けなかったらむしろ変な事です。“いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。” (テモテへの第二の手紙 3:12) したし “わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。(マタイによる福音書 5:11,12) しました。だから逼迫を受ける者が捨てることを受けるどころかむしろ神様に認められて賞を受けるようになります。心霊の中に財宝であるキリストの面倒を見た人は倒すことをあつても亡びません。ローマの十代皇帝がキリスト教を残骸して逼迫しました。しかし週後 313 年にローマのコンスタンティン大帝がキリスト教を公認するように神様が攝理なさいました。ローマは亡びたが教会は旺盛です。このように教会や聖徒を倒そうとしていた個人と国は亡びたが基督教会は亡びないでまた火のように起きて旺盛になっています。

三番目で、土焼きに対する神様の主権に関してよく見ます。

ローマ人への手紙 9 章 18 節～21 節に “だから、神はそのあわれもうと思う者をあわれみ、かたくなにしようと思う者を、かたくなにさせるのである。そこで、あなたは言うであろう、「なぜ神は、なおも人を責められるのか。だが、神の意図に逆らい得ようか」。ああ人よ。あなたは、神に言い逆らうとは、いったい、何者なのか。造られたものが造った者に向かって、「なぜ、わたしをこのように造ったのか」と言うことがあろうか。陶器を造る者は、同じ土くれから、一つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる権能がないのであろうか。” しました。神様は絶対主権自と分かなければなりません。土焼きが陶器師にけちをつけて計算して質問する権限がないです。私たちが神様に願いを申し上げることはできるが神様を詰問してはいけません。また土焼きは陶器師に感謝しなければなりません。そして現在与えられた姿どおりその使命に充実することで神様に光栄を帰する生を生きて行かなければなりません。それでは遺業の上をまったく同じく受けるようになります。

今まで私たちは土焼き比喻の中に啓示された真理を皆 詳考しました。土焼き製造に現われた“神様の救いの攝理”，土焼きに臨む “神様の恩寵”，土焼きに対する “神様の主権” をよく見ました。皆さんは神様の選ぶことを受けて救いをもらった聖徒らしく暮すためにもっと壊れた人になって財宝であるイエス様を仕えた者らしく日々に勝利の生活をして私たちをつけた絶対主権者である神様に常に感謝しながら生きて行くようにお願いします。